

トレンド・アロケーション・オープン

追加型投信／内外／資産複合



Trend Allocation

作成対象期間：2019年1月26日～2020年1月27日

第 8 期 決算日：2020年1月27日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、世界各国の株式・債券・リート等の幅広い資産へ実質的に投資し、市場環境に応じて機動的な資産配分を行い、信託財産の成長を目指して運用することを目的としています。為替変動リスクの低減をはかるため、外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第 8 期末 (2020年1月27日)

基準価額	12,749円
純資産総額	152,700百万円
騰落率	+11.2%
分配金合計 ^(*)	0円

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufig.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

MUFG 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

ファンドマネージャーのコメント

おかげさまで、トレンジ・アロケーション・オープン（以下、トレアロ）は、2020年1月27日に第8期の決算を迎えました。

当期（2019年1月26日～2020年1月27日）におけるトレアロの運用成果は11.2%の上昇となりました。2012年3月30日の設定来の成果を決算期毎に見ると^(注)、当期は第6期（2017年1月26日～2018年1月25日）に次ぐ好調なパフォーマンスでした。

（注）第1期は変則決算のため計算期間は約10ヵ月

当期の金融市場においては、株式、債券、リート等の主要資産が軒並み上昇しました。世界的に景気が安定に向かう中、2015年12月に利上げを開始した米国が2018年12月に利上げを休止し2019年7月から利下げを再開、ユーロ圏もこれに続くなど金融緩和の強化が上昇相場をサポートしました。株式市場においては米中通商協議の進展期待や米国企業の予想を上回る決算なども相場を後押しする要因となりました。債券市場では世界的な利下げトレンドや欧州委員会によるユーロ圏の成長率見直し引下げなどを受け債券利回りは低下（債券価格は上昇）しました。こうした金融市場の上昇トレンドを背景にトレアロは堅調なパフォーマンスとなり、基準価額は設定来高値（12,994円（1万円当たり））を視野に入れる水準にまで回復しました。当期は主要資産と比較し、下落を相対的に抑制しつつ組入資産の価格上昇の恩恵を得ることができており、幅広い資産へ分散投資を行い、資産価格の値動きの方向性を捉えることを目指すトレアロの運用戦略が奏功した1年でもあったと考えています。

当期のトレアロの資産配分につきましては、前期末に「下落リスクへの対応（ダウンサイド・リスク・マネジメント）」の一環として、短期債券・キャッシュ等の比率を高めていたことから低リスク資産比率が約8割という保守的な資産配分でスタートしました。その後、市況の回復に伴い同機能を弱める形で先進国株式等の高リスク資産の組入れを増加させてまいりました。その結果、期末時点においては高リスク資産比率が67.4%、低リス

ク資産比率が32.6%というやや積極的な資産配分としています。

前期のパフォーマンスにも関わらず、トレアロの純資産残高は大きく減少することなく当期を終えました。多くの受益者の皆様にトレアロのコンセプトをご理解いただき、長期投資のパートナーとしてお選びいただいておりますこと、大変喜ばしく、また大きな責任をあらためて感じております。足下の市場環境を俯瞰しますと、米国を中心に依然として経済ファンダメンタルズは堅調であり、金融緩和も市場の下支え要因となるでしょう。しかし一方で、米大統領選、イラン問題、米中対立の長期化など、将来大きなリスクとなり得る地政学上の不確定要因が点在しています。こうした環境下における資産運用では、リスク資産の価格上昇を追求しつつも、下落リスクへの備えも怠らないバランス感覚が重要でしょう。トレアロはこうした運用を1本で実現することを目指した投資信託です。幸いにも堅調なリターンとなった当期に驕ることなく、皆さまの大切な資産の運用に日々真摯に取り組んでいく所存です。今後ともトレアロと未永くお付き合いくださいますよう、よろしくご願い申し上げます。



アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン株式会社
ヘッド・オブ・マルチアセット・ジャパン
シニア・ポートフォリオ・マネージャー
スヴェトザー・ミランチェフ

上記は、アリアンツ・グローバル・インベスターズの資料を基に、三菱UFJ国際投信が作成したものです。

運用経過

第8期：2019年1月26日～2020年1月27日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第8期首	11,468円
第8期末	12,749円
既払分配金	0円
騰落率	11.2%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ11.2%の上昇となりました。

▶ 基準価額の主な変動要因

上昇要因

先進国株式や先進国国債などの資産が上昇したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

2019年1月26日～2020年1月27日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	83	0.688	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(40)	(0.327)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0.327)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(4)	(0.033)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	1	0.005	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	84	0.693	

期中の平均基準価額は、12,096円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

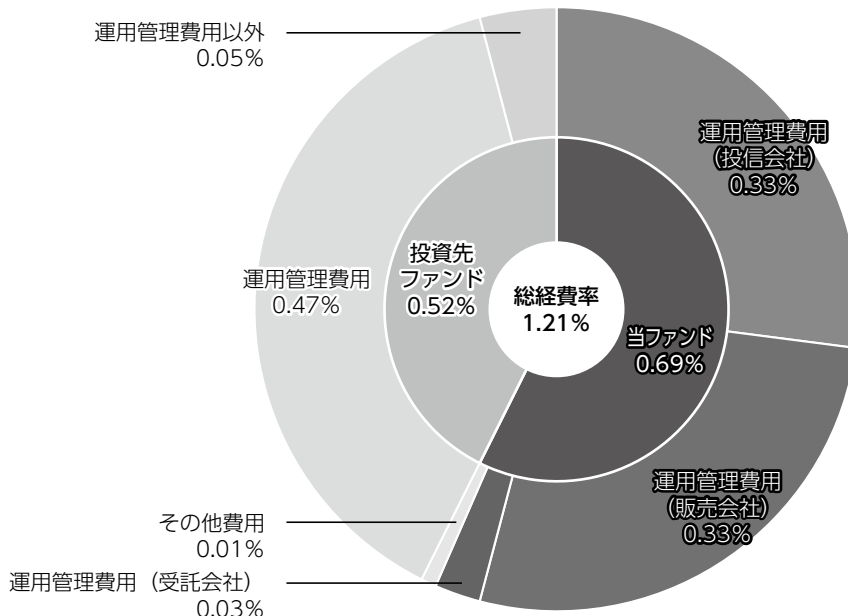
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.21%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	1.21
①当ファンドの費用の比率	(%)	0.69
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.47
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	0.05

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2015年1月26日～2020年1月27日

最近5年間の基準価額等の推移について



最近5年間の年間騰落率

	2015/1/26 期初	2016/1/25 決算日	2017/1/25 決算日	2018/1/25 決算日	2019/1/25 決算日	2020/1/27 決算日
基準価額 (円)	11,848	11,054	11,586	12,967	11,468	12,749
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	-6.7	4.8	11.9	-11.6	11.2
純資産総額 (百万円)	31,788	88,670	115,711	137,401	156,624	152,700

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

投資環境について

▶ 国債市況

各国の国債市況は概ね上昇しました。

米国の債券利回りは米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げなどから低下しました。

欧州や日本でも欧州中央銀行（ECB）や日本銀行の緩和的な金融政策などから債券利回りが低下しました。

新興国の債券利回りも米国国債に対するスプレッドの縮小などにより概ね低下しました。

▶ 株式市況

各国の株式市況は概ね上昇しました。

先進国の株式市場は、米中通商協議の進展期待や、FRBやECBの緩和的な金融政策などから上昇しました。

新興国の株式市場は上昇しました。

▶ リート、コモディティ

リートや金価格は上昇しました。

リートは、金利の低下などを受けて上昇しました。

原油価格は、石油輸出国機構（OPEC）の加盟国を中心とした産油国の協調減産の延長への期待や、米国とイランの緊張の高まりなどから上昇する局面もありましたが、期を通じてみると小幅な上昇にとどまりました。金価格は、米国における金利低下などから上昇しました。

▶ 国内短期金融市場

無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移、国庫短期証券（3ヵ月物）の利回りはマイナス0.1%を下回る水準で推移しました。

日銀による金融緩和政策の影響を受けて、無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移し、足下ではマイナス0.02%程度で推移しました。

日銀による短期国債の買入れなどから、国庫短期証券（3ヵ月物）の利回りはマイナス0.1%を下回る水準で推移しました。期首から上昇基調で推移していましたが、2019年9月末に需給の引き締めによりマイナス0.4%まで低下しました。その後上昇し、足下はマイナス0.12%程度で推移しました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ **トレンド・アロケーション・オープン**
 円建の外国投資信託であるダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド（ＪＰＹ）受益証券に投資を行いました。また、マネー・プール マザーファンド受益証券へも投資を行いました。

▶ **ダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド（ＪＰＹ）**

先進国の国債に投資を行うとともに、世界各国のETF等を利用することで、世界各国の株式・債券・リート等の幅広い資産に投資しました。また、組入比率の調整を目的として、世界各国の先物取引も利用しました。

為替変動リスクの低減をはかるため、外貨建資産については、対円で為替ヘッジを行いました。

ポートフォリオは、①基本資産配分を行う「トレンド・アロケーション」、②基本資産配分に対する微調整を行う「タクティカル・アセット・アロケーション」、③下落リスクへの対応を行う「ダウンサイド・リスク・マネジメント」を活用して構築しました。

【トレンド・アロケーション】
 上昇トレンドの傾向が強まったことから、高リスク資産の比率を徐々に引き上げていきました。

【タクティカル・アセット・アロケーション】

基本資産配分に対する微調整を行う「タクティカル・アセット・アロケーション」では、高リスク資産の見通しを引き上げていきました。

【ダウンサイド・リスク・マネジメント】

下落リスクへの対応を行う「ダウンサイド・リスク・マネジメント」による短期債券・キャッシュの組入比率の引き上げは行いませんでした。

これらの結果、期末の資産クラス別構成比は高リスク資産67.4%、低リスク資産32.6%となりました。

(ご参考)

■資産クラス別構成比

期首（現地2019年1月24日）

資産クラス		比率	
低リスク 資産	先進国国債	64.5%	80.6%
	先進国社債	0.0%	
	新興国国債	8.6%	
	現金等	7.6%	
高リスク 資産	先進国株式	12.7%	19.4%
	新興国株式	3.1%	
	コモディティ	0.3%	
	リート	3.4%	

期末（現地2020年1月24日）

資産クラス		比率	
低リスク 資産	先進国国債	20.3%	32.6%
	先進国社債	3.5%	
	新興国国債	9.9%	
	現金等	-1.1%	
高リスク 資産	先進国株式	56.3%	67.4%
	新興国株式	9.0%	
	コモディティ	2.1%	
	リート	0.0%	

- ・比率はダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド（J P Y）の純資産総額に対する割合です。
- ・現金等は、短期債券を含みます。また、為替ヘッジの含み損益を含むためマイナスになることがあります。
- ・資産クラス別構成比は、アリアンツ・グローバル・インベスターズからの情報提供を基に表示しています。
- ・各数値は表示桁数未満で四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

(注) 当記載は、アリアンツ・グローバル・インベスターズの資料を基に、三菱UFJ国際投信が作成したものです。

▶ マネー・プール マザーファンド

わが国のコール・ローンおよびCP現先取引等への投資を通じて、安定した収益の確保および適正な流動性の保持を図りました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第8期
	2019年1月26日～2020年1月27日
当期分配金（対基準価額比率）	-（-%）
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	2,964

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

- ▶ **トレンジ・アロケーション・オープン**
引き続き、円建の外国投資信託であるダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド（JPY）受益証券に投資を行います。また、マネー・プール マザーファンド受益証券へも投資を行います。
- ▶ **ダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド（JPY）**
先進国の国債に投資を行うとともに、世界各国のETF等を利用することで、世界各国の株式・債券・リート等の幅広い資産に投資します。
為替変動リスクの低減をはかるため、外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行う方針です。
ポートフォリオは、①基本資産配分を行う「トレンジ・アロケーション」、②基本資産配分に対する微調整を行う「タクティカル・アセット・アロケーション」、③下落リスクへの対応を行う「ダウンスайд・リスク・マネジメント」を活用して構築します。
- ▶ **マネー・プール マザーファンド**
物価は緩やかに上昇していくと予想していますが、日銀の物価目標である2%には届かないと思われます。したがって、今後も金融緩和政策が継続すると想定されることから、短期金利は低位で推移すると予想しています。以上の見通しにより、わが国の国債や短期国債（国庫短期証券）現先取引、コール・ローンおよびCP現先取引等への投資を通じて、安定した収益の確保や常時適正な流動性の保持をめざした運用を行う方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・信用リスクを適正に管理する方法を新たに定める（分散型に分類）とともに、約款記載の整備を行うため、信用リスク集中回避のための投資制限の追加およびこれに伴う投資制限の記載変更ならびに約款記載の整備を行い、信託約款に所要の変更を行いました。（2019年4月25日）

▶ その他

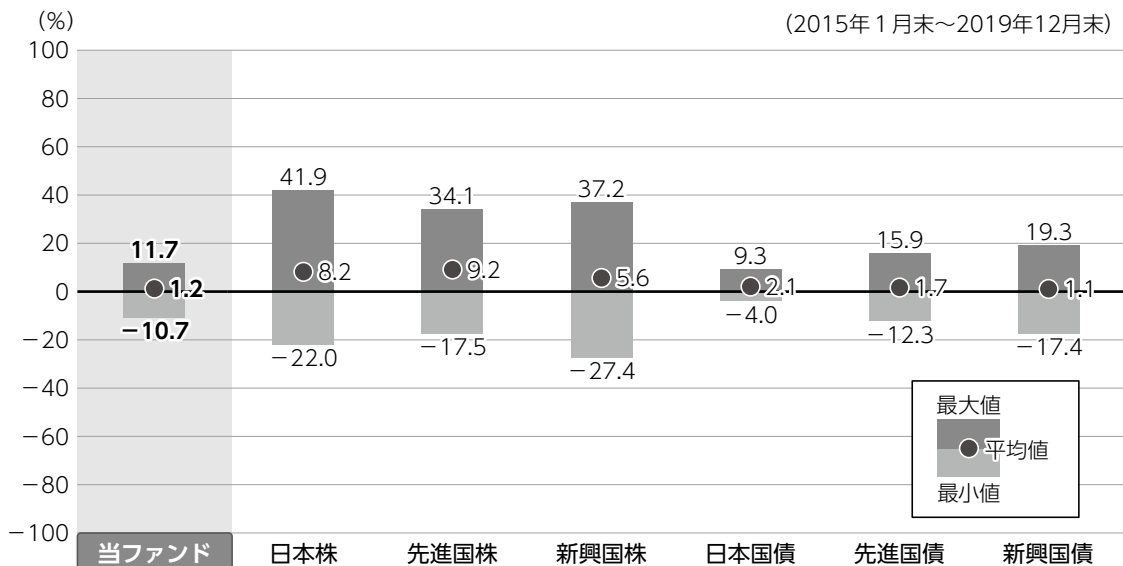
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限（2012年3月30日設定）
運用方針	ファンド・オブ・ファンズ方式により、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	<p>■当ファンド ダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド（JPY） 受益証券、マネー・プール マザーファンド 受益証券</p> <p>■ダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド（JPY） 先進国の国債、世界各国のETF等</p> <p>■マネー・プール マザーファンド わが国の公社債</p>
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各国の株式・債券・リート等の幅広い資産へ、実質的に投資します。 ・安定的な資産成長のために、市場環境に応じて機動的な資産配分を行います。 ・為替変動リスクの低減をはかるため、外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。
分配方針	<p>毎年1月25日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益配分方針に基づいて分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。）</p> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）</p>

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2015年1月から2019年12月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversifaid

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2020年1月27日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第8期末 2020年1月27日
ダイナミック・マルチ・アセット・プラス・ファンド (JPY)	98.9%
マネー・プール マザーファンド	0.0%

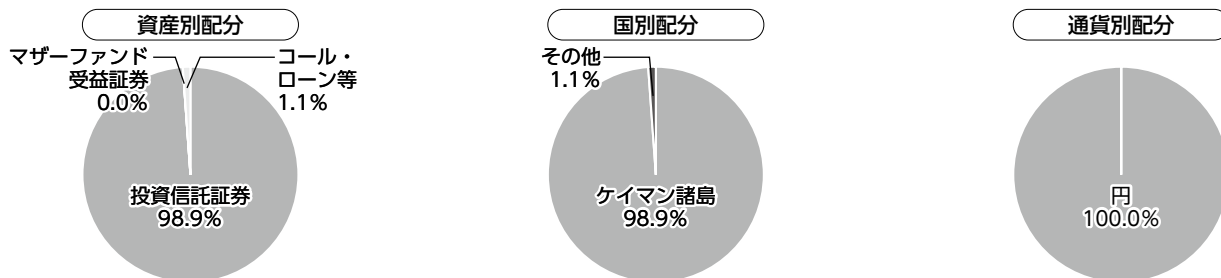
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

純資産等

項目	第8期末 2020年1月27日
純資産総額 (円)	152,700,669,239
受益権口数 (口)	119,773,675,177
1万口当たり基準価額 (円)	12,749

※当期中において追加設定元本は10,533,022,432円
同解約元本は 27,339,810,799円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

現地2019年3月29日現在

組入上位ファンドの概要

▶ ダイナミック・マルチ・アセット・プラス・ファンド (J P Y)

基準価額の推移

現地2018年3月29日～2019年3月29日



※上記には、分配金が含まれていません。

1万口当たりの費用明細

現地2018年3月30日～2019年3月29日

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示できません。

【参考情報】

費用項目	比率
信託（管理）報酬	0.48%
その他	0.05%
費用合計	0.53%

※上記は、Financial Statementsに掲載されている費用明細を三菱UFJ国際投信が「信託（管理）報酬」と「その他」に分類して表示したものです。
 ※比率は、上記分類による費用金額の合計を期中の平均純資産総額で除した参考値です。

組入上位10銘柄

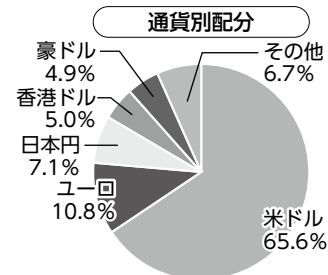
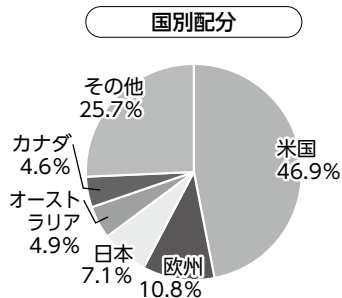
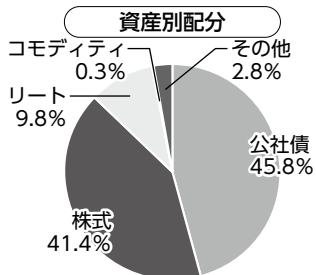
(組入銘柄数：85銘柄)

	銘柄	国	資産	比率(%)
1	ISHARES JP MORGAN USD EMERGING MARKETS BOND ETF	その他	新興国国債	10.0
2	VANGUARD REAL ESTATE ETF	米国	リート	9.8
3	SPDR S&P 500 ETF TRUST	米国	先進国株式	9.5
4	VANGUARD S&P 500 ETF	米国	先進国株式	9.5
5	ISHARES IBOXX \$ INVESTMENT GRADE CORPORATE BOND ETF	その他	先進国債券	5.8
6	JAPAN TREASURY DISC BILL /JPY/ REGD ZCP SER 797	日本	先進国国債	4.9
7	HANG SENG IDX FUT APR19 /HKD/	その他	新興国株式	4.5
8	SPI 200 FUTURES JUN19 /AUD/	オーストラリア	先進国株式	4.4
9	S&P/TSX 60 IX FUT JUN19 /CAD/	カナダ	先進国株式	4.4
10	SWISS MKT IX FUTR JUN19 /CHF/	スイス	先進国株式	4.1

※比率はダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド (J P Y) の純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

種別構成等



(注) 比率はダイナミック・マルチアセット・プラス・ファンド（JPY）の純資産総額に対する割合です。

※組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、アリアンツ・グローバル・インベスターズの資料を基に、三菱UFJ国際投信が作成したものであり、運用報告書（全体版）とは異なる場合があります。

154024

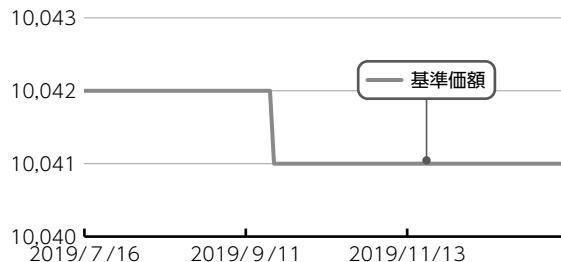
2020年1月14日現在

組入上位ファンドの概要

▶ マネー・プール マザーファンド

基準価額の推移

2019年7月16日～2020年1月14日
(円)



1万口当たりの費用明細

2019年7月17日～2020年1月14日
当期において費用が発生していないため、費用明細は作成しておりません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：1銘柄)

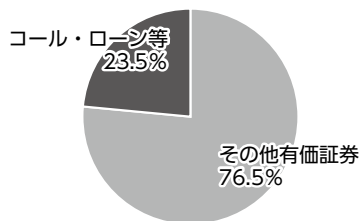
	銘柄	種類	国	業種/種別	比率(%)
1	アミカスF 200115	その他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	76.5
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

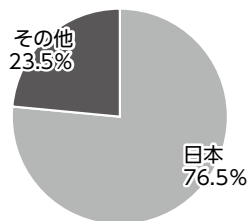
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

種別構成等

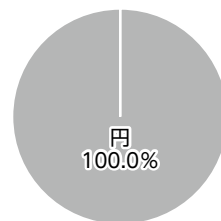
資産別配分



国別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

●MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。